

平成 29 年度 狛江市市民活動支援センター臨時運営委員会 議事録

- 1 日 時 平成 29 年 9 月 25 日（月） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
- 2 場 所 市民活動支援センター フリースペース
- 3 出席者 委 員 伊藤輝芳 伊藤聡子 荻野修 高橋宗孝 羽田野英博 松村正俊
松村雪子 三島瑞子
事務局 小楠寿和 志田五十鈴 白石珠美 高橋善治 中里紀男 日比野浩
(50 音順 敬称略)
- 4 欠席者 委 員 上田英司 内海貴美 大矢美枝子 佐藤新哉 高橋英史 田部井則人
西岡邦子 渡辺敏政
- 5 傍聴者 2 名
- 6 議 題 1 協議事項
(1) 狛江市市民活動支援センター ～こまえくぼ 1234～
平成 30 年度事業計画（案）の修正について
(2) 狛江市市民活動支援センター平成 30 年度予算（案）の修正について

7 会議概要

1. 開会

- (1) 委員長あいさつ
委員長からあいさつがされた。

2. 議題

- (1) 協議事項

(委員長)

今日は欠席の委員が多いが、口頭で委任していただいているので、委員会は成立とする。前回の会議でご意見をいただき、事務局で事業計画案の修正をしたが、前回委員からご意見があったことについて提案をしていただきたい。

(委 員)

情報部会が周知活動としてホームページがどの程度市民団体の皆さんに周知されているのか、あるいは活用してもらえるのかということで、8月23日にイベントを行った。集まってもらったのは50名ほどで、異世代、異分野の団体の皆さんが集まった。

多くの団体が世代や分野に関係なくそれなりにホームページに関心があったので、ホームページで若者世代、シニア世代、子育て世代と集まったが、その連携を考えていけないのではないか。また、ホームページの利便性をもうちょっと皆さんが分かることによって、情報の共有、仲間づ

くりとすることができるのではないかと。それから、新しいネーミングを考えて、ホームページを使ったこまえくぼの仲間づくりをして団体がどんどん増えていくというところを目指していけないのではないかと。これらが周知キャンペーンで分かったこと。

以上のことを実現するために、30年度に向けて、29年度の下半期、30年度にどんなことをしようかということで、運営委員会の有志で小委員会を立ち上げて、周知活動に特化して準備をすることがよいのではないかと。思う。

小委員会に対する下半期平成30年度の事業予算の概要ということで、この数字はまだ概要だが、かなり具体的な根拠をもとにして作られている。項目としては、調査研究、謝金（外部講師などの講習）、資料作成印刷代、勉強会、研修会、説明会など。これは、ホームページを活用する講座を継続的に広めていくということが必要になるので、その中からインストラクターを養成して、さらに研修会とか説明会の回数を増やしていくことを考えている。それぞれに対して優先度があるが、3つの予算を案として出させていただいた。

（委員長）

前回、情報部会のイベントでちゃんこ鍋の絵に当たるようなものが行われたが、参加された委員の方にも感想を言っていただきたい。

（委員）

団体の活動として参加したが、団体の高齢の方3名くらいを野川地域センターからこまえくぼまで送迎した。リーダーの方が年齢も高い人だったが、自分たちの活動内容をPRするために独自のパンフレットを作っていたのにはびっくりした。ホームページよりもそれ以外の会話の方が主体的だったのでこれといった感想はないが、いろいろな話ができただけはよかったと思う。

（委員長）

ホームページだけに限らずにいろいろな人や団体がここへ来て、出会いの場にもなっているのはいいと思う。

小委員会のところは後程協議させていただきたい。そのほかご質問があればお受けしたい。

（委員）

先ほどの説明の資料の、新しいネーミングを考えてというのは、具体的に何の新しいネーミングか。

（委員）

ホームページというのは、手段であって、それぞれの団体の情報を発信するというだけでは、見る人は見るが見ない人は見ない。これでは周知というところに結びつかないので、情報を発信

する人たちがもっと集まって、新しい情報を発見していく、発信していこうというところで、ネーミングというものがあればということ。これはあってもなくてもいい。

(委員)

ネーミングという、たとえば、市民活動支援センターの名称を変えようとか情報部会の名称を新しくして周知活動しやすくしようとか、キャッチコピーを新しく考えて周知浸透をさせると言う意味があるのかと思ったのだが、そういう意味ではないのか。

(委員)

そうではない。市民活動支援センターの名前を変えるとかではなくて、ホームページという言葉をもうちょっと市民団体に近い言葉に変えるということ、小委員会の名称も含めて、これからみんなで考えましょうということ。

(委員)

先ほどの資料で、予算概要の中のインストラクター養成と書いてあるのは、具体的には市民活動支援センターのホームページの使い方をおしえる人のインストラクターということか？

(委員)

そのとおり。

(委員)

続けて、市民協力者への有償サポート、専門家への有償サポートは市民協力者に有償サポート、謝金を払うということか。

(委員)

そういう意味になる。

(委員)

この市民協力者は何をする人か。

(委員)

市民協力者というのは、どこかの市民団体に所属していて主にこのホームページを自分たちのためにもつくるけれど、インストラクターになる人たちは、同じ分野同じ地域の団体に周知をする人たち、継続的に活動する人たちになる。

(委員)

専門家は？

(委員)

NPO を立ち上げたり行政書士や税理士などが市民にいる。そういう人たちがすでに町会にもいるしいくつかの団体の中にもいる。そういう人たちに責任をもってサポートしてもらおう。

(委員)

謝金ということか。

(委員)

そういうことになる。

補足として、それぞれの地域センターには 100 くらいの団体がいる。その団体がいろいろな分野の人が活動していて、町会も含めて HP を持っているわけではない、そういう人たちの情報をこまかくばに集めてあげてそういう人たちも活用する。地域センターは 4 つあるから、それをまず地域センターでやってもらう。

(委員)

地域センターはそれぞれセンターの活動内容を、こういう活動があつてこういう活動をしていますというのがあり、例えば、野川には野川のレジメがある。それをまとめるのがこまかくばで、それぞれの地域センターにはある程度まとまった紙はあるけれども、狛江市全体をこまかくばが中心になってまとめるということか。

(委員)

こまかくばが中心ということではないが、共通する部分をこまかくばに情報として集めると、必ずそこに来てくれる。こまかくばを利用していただくことによって利用者団体登録など、手続きなどいろいろな分野でそういうものも一元化したり、そういうこともやっていければと思う。

(委員長)

他にご提案があれば出していただきたい。

(委員)

今まで、周知するための活動とか何かというのは、重点の上の方にあつたが、今回の内容からそういう扱いになっていない。3年目になくなったのは、周知活動はもういいと思っているのかどうか、これからもいろいろなところへ周知するとも言っていたので、そういう活動がなくなるのかどうか。

(委員長)

その点について確認するためにも、事業計画案の報告に移りたい。ご提案はあるか。

—全体・ない—

①狛江市市民活動支援センター～こまえくぼ1234～

平成30年度事業計画(案)について

—事務局より、変更点(網掛け部分)のみ説明—

(事務局)

委員のご指摘についてですが「より良い相談対応」「情報の収集と発信」「支援センターのPR」の3点は引き続き主な取り組みとして行う。前回もお伝えしたが、目標というよりは、基本的な役割になるので、基本事項として表現している。

②狛江市市民活動支援センター平成30年度予算(案)の修正について

—引き続き、予算書について説明—

(委員長)

前回の予算案よりは、総額が増えている。情報部会の提案の部分も念頭において増えているとのことなので、そのあたりは反映されているのではないか。

(委員)

これをくравてもわからないが、先ほどの提案のホームページの部分はかなりかかるように思うが、ここに予算をかけて効果が出るものなのか。

(委員)

今日提案したものについて事務局の予算案に勘案はされていると思うが、効果が出るから出している。

(委員)

今後見ていけば分かるものとうことか。インストラクターのところは分かりにくい。

(委員)

委員から提案された分も予算の案に入れてということだが、具体的にどこになるのか。

(事務局)

先ほど提案された案は本日いただいたものなので、これがそのままそっくり反映されてはいない。ただ、提案として細かく出していただいたものなかには、こちらで立てた予算案に含ま

れているものもある。

(委員)

この予算の提案を出したものの数字がこのままではないということは私も理解して、反映されているということはわかった。効果があるかどうかという質問があったが、見ない人も家族や地域から情報を得ることもできる。紙の媒体も大事だが、ホームページは蓄積することができる。継続するというのがホームページの大きな効果だと思う。

(委員長)

ホームページは一つのキーワードではあるが、人と人がつながるとか、情報を交換するとかいう場を作るということなども含めながら、ホームページというキーワードを言っていると理解している。

顔を合わせる機会とホームページをリンクするということは、広がりが出てくる流れではないかと思う。ホームページを使っていない人や関係ない人も巻き込みながら、4地域センターの関係も作りながら、ホームページという一つのキーワードがないときっかけづくりができない。

(委員)

委員長の説明で分かった。そういう理解をホームページで得られない人も得られるようにしていただければいいと思う。

(委員長)

若い人たちもひきつけるようなキーワードがないと難しいかなと思うのでそういう意味ではいいのではないか。

(委員)

予算の事業は500万、情報発信で400万使う。500万のうち400万、これがほとんどなので、成果を測る指標をきちっと用意してほしい。

ITだけの話ではなく、ここが発信する情報をどの媒体で何をやって、どんな成果があるのか。ホームページが有効に使われているというのは何を見て判断するのか。アクセス数なのかもしれない。さきほどの話にも合った、皆を結び付けるという話であれば、ホームページを使って結びつけた成果は何かということをはっきりして、後で評価して変わりましたと言える指標を考えていただきたい。

情報があるのは、ここだけではない。市のホームページだってなんだってみんなある。

全体をまとめて、市を代表してみんなやるのか、こういう部分だけやるのか、情報ということ全部で見て評価の仕方なんかも考えて進めていくと、運営委員会でも検討の材料になると思う。

(委員長)

事業ごとの予算案が出たので、評価するのもわかりやすくなっていると思うが、運営委員会が評価をするような小委員会を設けるとかということは考えないのか。

(委員)

事務局と一緒に話しをしてつくっていく。報告をいただいて運営委員会で評価する。小委員会がいいのか、事務局と調整するのが良いのかはよくわからないが、運営委員会としては、上手くいっているかどうかチェックできればいい。

委員のご提案のように市民の人が入って取り組むものは、小委員会で良いと思うが、業務をやった後にそれをどうするかというのは、プロジェクトというか、運営委員と事務局で一緒になって取り組む形が良いと思う。

(副委員長)

委員からの提案は、こまекぼがまだ市民に十分利用されてない理解されていないということから、ここに力を入れている案を出された。

これだけお金を使う中で、成果や評価という意見は当然出てくると思う。それを評価するのはお金じゃなくて、一般の市民にも何らかの形で一番わかりやすい形、数字とかにはしていかないといけないと思う。

(委員)

先ほどの質問については、一つは、私が提案したもので考えたいと思う。

一つは小委員会というものが運営委員会に所属して、事務局と協力して、運営委員会に提案をするこの制度をおっしゃっていると思う。

もう一つは、小委員会は事務局、行政の関係部署、外部の団体が協力して目標の設定、実施、評価等の制度設計に関わり、市民団体を継続的に支援する役割を果たす。これは効果があるかないかという話を含めて、当然こういう評価をしていくということ。十分に先ほど話したが、それだけの金額を出して使って評価を出すということをぜひ、提案させていただきたいと思う。

(委員長)

小委員会については、運営委員会で承認されたら立ち上げることができるが、委員から提案された小委員会を立ち上げることについてご質問、ご意見があれば出していただきたい。

(委員)

何をやる小委員会なのか。何でもいから小委員会を作りましょうということではなくて、目的が大事になる。

(委員)

ホームページをまず核にして、そこから情報発信・収集を含めて団体を増やしていく、人々との繋がりを作っていくという小委員会になる。

(委員)

今の提案の中で、ほとんどがホームページというニュアンスが多い。私は、人の集まる所で PR 活動を行う、実際に顔の見える形で行えないものかなと思う。パソコンにこだわらず、顔の見える形での PR 活動も取り入れていくべきではないか。

(委員)

私もその通りだと思う。今回の提案は情報部会、ホームページというものが核になっているが、それだけではなくて小委員会がいくつもあっていい。それが運営委員会の中で具体的に提案されてきて具体的な活動の中で、審議されて評価されてという形になっていけばいい。

(委員)

情報部会と小委員会の違いはどこになるか。

(委員)

情報部会は最初にその問題に直面し、議論の末、今現在はホームページに特化してきている。情報部会という名称も部会の中で見直しをしていかないといけないと思う。ご質問の問題を私たちも感じている。

(委員)

今提案された小委員会ではなくて、小委員会をたてるなら専門部会すべてに対して 1 年間どうだったかとか、そういう評価とかをお互いにしていけるような形の小委員会をつくるならその方がいいと思う。

(委員長)

評価のための小委員会ということか。

(委員)

評価ということになると思う。

(委員)

ホームページというのがもうすこしきちんと位置づけられないと、相変わらず見る人しか見ないというホームページになってしまうので、情報の発信をするということがこのホームペー

ジ部会、という形になる

(委 員)

それは情報部会の中でやればいいことだと思う。

(委 員)

その内容なら、ホームページを使ってと言わなくても、情報発信して集まってくる。一つはホームページとか電子を使ったことがあるだろうし、紙を使うこともあるだろうし、口コミを使うこともあるだろうし、そういういろいろな媒体を使う。情報に関すること全部を一回見直して、まとめてやった方が成果が出ると思う。

(副委員長)

各センターや、各団体が情報を共有できていない。ホームページにかかわらず、それらをまとめることは、こまえくぼの役割ではないか。小委員会にこだわるわけではないが。それから、お金がからむことだから、それだけの効果を何らかの形で測らなければならない。

そして、小委員会はこの運営委員会の中で行っていくものだから、メンバーをどうするか。

(委 員 長)

現在やってる事業の評価は必要だと思う。

ここで提案されているのは、それとは別になる。部会の中では取り組めないものを、多様なニーズでホームページだけに限らないでやれるような、市民が主体になる委員会を設けたらどうかというふうに考えたのではないかと思う。

いろいろなところにPRに出かけることも必要で、提案はそれと矛盾はしてないと思う。核となるところにホームページを据えて広げていく、ホームページの相談にも乗り更新も出来たりというような頼りになるところとして考えたいということだと思うが、もう一度説明してほしい。

(委 員)

私は小委員会というメンバーが専門部会に所属していようが委員会に所属していようがいいと思う。基本的には運営委員会になぜ所属しないといけないのかなという考えもあるが、運営委員の皆さんはそれぞれの団体の代表で来られてる方たちばかりなので、ここへ来るときにどれだけの情報を持ってくるか、それぞれ団体へ帰った時に、こまえくぼをアピールしていただく必要があると思う。そういう団体の中に持ち帰ってもらえるような仕組みを作っていないと、少なくとも団体の登録は増えない。

(委 員 長)

提案にはそういう意味合いもあったということですね。

小委員会は、運営委員が立ち上げるということ。運営委員会の中の情報共有にも、そういう仕組みの一つとしてということを考えているというのが、今日の提案だと思う。

(委員)

今日は委員の出席が少なすぎる。小委員会を作るか作らないかはもうちょっと検討した方がいいのではないか。

(委員)

小委員会を作ることはできる。何の小委員会をつくるかということをはっきりすればいいだけだと思うが、ホームページに絡めるから分からなくなる。あり方を考える一つがホームページということであって、こまекぼの在り方を考える小委員会ということではないのか。

(副委員長)

情報部会の中ではやりきれない、もう少し大きくしないと進まないんじゃないかというところでの提案ではないかと思う。

(委員)

おっしゃるとおり、私の関心事はホームページだけではない。結果として団体がどんどん入ってきて人と人がつながるといところがこまекぼの一番の目標だと思う。そのために小委員会がどうあるべきかという話であり、私はたまたま情報部会にいたからそこから提案をさせていただいた。キャンペーンをしてホームページはそのひとつのきっかけになるだろうということ、ホームページを見ない人も見るようになるということがとても大事になる。

(委員)

この運営委員会をもっと盛り上げる方が先だと思う。

(委員)

今日できるということを決めない限りは、この次に承認されるまでは提案があってもできないということが決まるだけになる。

(委員)

今回予算案にある程度組み込んでいただきたいということも検討の中に入っている。30年度の予算ということで、今月末までにある程度数字を出してくださいということで私は提案した。そうでなければ小委員会がどの位置づけで機能するのかというのは構わない。

(委員長)

提案されているので、小委員会の形もはっきりしないこともあるが、もう少し整理することも必要。提案されてもここで決められないのも問題だと思うので、決を採る。継続して審議するということも含めて採決したい。

(委員)

小委員会を作るには、有志によるというものになると、有志が集まらなかった場合にはどうなるか。

(委員長)

小委員会は委員長がメンバーを集めてここで承認されればできる。

(委員)

小委員会をつくるのは有志だと提案されているが、どうなのか。

(委員長)

必ず運営委員が小委員会のメンバーにならないといけないということではない。

(委員)

有志はそういう意味で、反対に手を挙げた方は有志になる必要はない。

(委員長)

それでは、採決の結果、賛成4名、反対1名、継続審議1名ということで今日は少ないが多数過半数なので、賛成ということにしたい。

(事務局)

今決を採っていただいて賛成ということだが、何のための小委員会なのかはきちんとはつきりさせて立ち上げるのが大事だと思う。提案された資料では小委員会の目的が2つあるようで広がってしまう気がするので、明確に何々をするための小委員会とした方がよい。情報部会と小委員会の違いがよくわからないという話もあった。そこも整理した上で小委員会立上げをしたほうがよい。

(委員長)

運営委員会の要綱の第7条に、小委員会は運営委員会に置くことができる、小委員会の構成について必要な人数を運営委員会の議決を経て決めるとなっている。提案された小委員会の委員長は提案委員がするというのでよいか。

(委員)

何をするための小委員会を立ち上げるから、参加する人はいますかというように言っていたいて、集まった方の中で小委員会の委員長を決めるのか、運営委員長の方で指名するのか。そういう手順を踏めば良いが、誰が参加するかわからない中で小委員会の委員長はこの人ですよというのはどうか。

やることははっきりしていればその小委員会の権限がわかる。何をやるために小委員会を立ち上げますということがはっきりしていれば、人選は目的を達成するために一番いい方がやればいい。

(委員)

小委員会自体が立ち上がるのは賛成だが、コンセプトがしっくりこなかったのもう少し明確にしてからの方がいいと思う。賛成多数で小委員会が認められたわけだが、小委員会の下にぶらさがっている予算も認めるということか。先ほどの説明だと小委員会に必要なのがこの予算だということだったのではっきりさせたほうがいいと思う。

また、運営委員会の規定の中で、議決の部分で、「運営委員会の議事は運営委員の総数の過半数で決し」とされているので、欠席の方の委任状が出てくるかもしれないが、よく考えて議事決定の判断をしていただければと思う。

(委員)

議決は、委任状の人が誰に委任してるかわからないが、だいたい議長に一任という例が多い。議長が賛成であれば議長に同意する。

(副委員長)

委任状は議決の結果に対して承認してもらおうということでもいいと思うが、今回の検討内容がその前に十分通っていたかどうかということもある。委任状出されている方は結果に対しては同意したと解釈したとしていいのではないか。

(委員長)

議決に関しては副委員長のおっしゃった通りでよいと思う。ただ、小委員会の目的がもっと明確でないと、実施が目的に沿っているかという判断は難しいという意見もある。次回の委員会で、もう少し明確な目的とかテーマ、できれば委員の構成も含めて出していただくということではいかか。

(副委員長)

漠然としている中で立ち上げようという結果にはなったが、ここにいらっしゃる方のご意見や趣旨は大体分かったので、まとめて次の運営委員会の時にこういう結果だったのでこうなっ

たという説明でよいと思う。

提案されたものと、今日皆さんから出された意見を、統一して進めるのは可能か。

(委員)

少なくとも提案したものがすべてではなくて、皆さんの意見を伺って出すということになる。

(委員)

資料を見ると小委員会はなんでもやる。構成をどうするか決められて、行政と団体と協力して目標設定や評価などの制度をつくとあって、継続的に支援する役割という実務部隊もやる、小委員会は新しい事業を視野に入れた支援活動を提案するとなっている。

そうすると、ここに書いてある内容は、ほとんど運営委員会がやる内容をすべて網羅しているのではないかと思う。つまり、運営委員会の下に、実際に検討したり実施したりする部隊を小委員会という名前の中で作りますということをおっしゃっていると思うが間違いないか。

(委員)

そのとおり。

(委員)

ということは、さっき言われた採決したときに、範囲を決めて言ったけれども、それはなしですということを書いてらっしゃるのか。

(委員)

いや、小委員会で範囲を決めればいいのか。

(委員)

それは運営委員会で決めて、小委員会はこの範囲の仕事をやってくださいというのが小であって、これでは運営委員会の上の大委員会になってしまうと思うが。

(委員長)

今の小委員会の提案については、次の運営委員会で枠を決めたものを提示してもらおうということを経験にということではないか。それが、ここで承認された方向と一致しているということを再度確認をするということにしたい。議事録を含めて再度検討したうえで小委員会の枠組みを提案していただくということにさせていただきたい。提案委員が中心になって、今ここで審議された内容を含んだ枠組みをもう少し明確にして次回の運営委員会に提案するということがか。

(委員)

提案するときに次回の運営委員会までにまとめないといけない。それは誰がやるのか、提案した委員がやるのか。

(委員長)

中心は提案された委員だが、委員長も小委員会の目的、内容のまとめに加わる。

(委員)

小委員会は認められたということだが、ここにぶら下がっている予算は反映させるのか。明確にさせなくていいのか。

(事務局)

先ほども申しあげたが、小委員会というかたちで予算を立ててはいなかったもので、提案された数字はそっくりそのまま反映されていない。ただ、今日出していただいた部分と多少重なるところがある。情報部会の中でやっていくというところで予算につけているものもあるので、小委員会でやったほうがよいものがあれば小委員会でやることになる。

(委員)

公のところに予算書を提出するタイムリミットはいつになるか。
提案された予算案を検討して組み込んで提出する時間的な余裕があるのかどうか聞きたい。

(委員)

この数字を概算でいいから出してくださいと言われて以前から検討している内容を予算案に反映させるというタイミングを含めて概算を出した。

(事務局)

参考になるものがないと検討もできない。

(委員)

予算案作成の中で、政策室と話をする中で間に合うのか間に合わないのかということ。

(副委員長)

小委員会ができるということは決まったが、中身を詰めていくうえで、今かけこみみたいに予算に入れるとしても根拠がない。スタートして、予算が足りない多いという問題が出てくると思うが、30年度予算案を通したうえで先に行ったかたちで見えていくしかない。
小委員会を考慮した予算ではなくて他のことで積み上げた予算だということなので、先ほど事務局が説明した内容の中でいいのではないか。

(委員)

小委員会は予算が通るかどうかは別にして、こういう事業をするときにこういう予算が必要ですという案ですから、事務局の方で摺合せをすることが必要で、これを参考にしてもらわないと困る。

(委員)

この予算を作るために、案を出してくださいと言われて、満額回答ではないがこれをいただいたものをもとにしてこの案は作っているというプロセスだから、この役割はとりあえず終わっている。何パーセント反映されているかはわからないが、反映した結果こうなっているというのなら、手順としてはこれでいい。

もうひとつは、ここに出ているのは社協に対する提案になる。ここで決まったからそうじゃなく、その結果が出た時にもう一回その決まった予算の中で来年どうやるかということを考えるしかないと思う。

(委員長)

予算については、提案されたもの全てが反映されているわけではないが、予算案の中で反映できるものを反映したということなので、それで承認していただきたいと思うがいかがか。小委員会の提案をそのまま予算案に反映させるものではないということになるが、小委員会そのものは承認されたということになる。

事業計画と予算案について採決を行う。承認される方は挙手をお願いしたい。

事業計画について

— 全員挙手 —

予算案について

— 全員挙手 —

それでは事業計画案と予算案については全員承認とする。

今日の協議はこれで終わりとする。

3. その他

事務局よりお知らせ

広報部会から

11月15日発行予定の第3号から、運営委員さんのリレートークというコーナーを始めた。今回は皆さんにお伺いする時間がなかったため、三島委員長と伊藤副委員長からスタートし、今後皆さんにも回るのをお願いしたい。

次回の運営委員会は、12月13日（月）18時30分から。